



1. プロジェクト概要と社会的背景

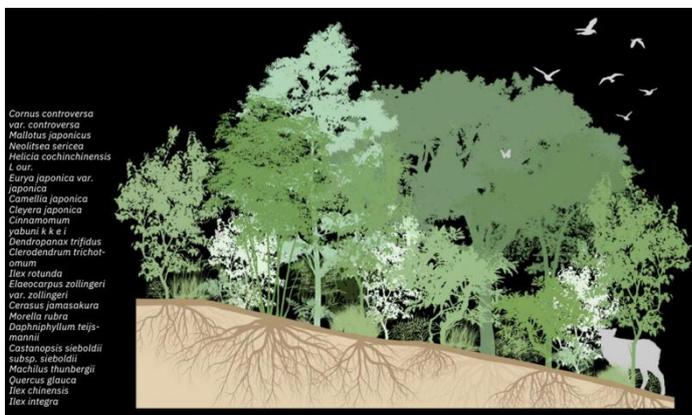
株式会社グリーンエルクは、年間数十万本の在来種を中心とした苗木を生産し、全国の外構緑化から森林再生など幅広いプロジェクトを展開する企業です。林学博士を中心とした森づくり専門チームが、種子採取から育苗、植栽後の管理まで一貫してサポートすることを特徴とします。日本の人口減少とともに、森林所有者の高齢化が進み、人工林の手入れが困難になっている現状があります。そのような林業施業が行き届いていない人工林では、植生が単調になりやすく、健全な森林に比べて災害が起きやすく、生物多様性も乏しいと考えられます。そのような人工林を様々な企業様と一緒に天然林に転換するプロジェクトが【里山 ZERO BASE】です。さらに、天然林に対して経済価値や生物多様性の可視化する動きが世界では始まっていることから、天然林が TNFD や NP の万能薬になると想定しています。

2. 森づくりの現状と難しさ

現在、日本でつくられた森の多くは植樹時の種数が少なく、その土地に適した種の選定がされていない状況が見受けられます。そのような森では物質循環が滞り、自ずと生物多様性も乏しく、生態学的にみて不自然な状況が多いと考えられます。いわゆる“見せかけの天然林”が増えていると推察され、森づくりには植栽地の立地条件や土壌特性、潜在自然植生を考慮するなど専門性を必要とするため、知識に偏りがある一般の方が行うには難しいと考えられます。

3. 森の設計と最先端の森づくり

森の設計は前述したように、その土地の現存植生、潜在自然植生、立地条件、土壌条件、周辺環境など様々な事項について専門的な知識と経験を活かして整理・分析し、最終緑化目標を設定しながら設計します。そして、森づくりには種子採取から苗木栽培、植樹、管理、モニタリングなど様々な工程が存在し、それを一括で監修できるのが【里山 ZERO BASE】の特徴でもあります。また、研究と実践の融合することで社会実装に繋がると考えられます。



天然林の植生断面 (例：イノデ-タブノキ群集)



里山 ZERO BASE の紹介